



亀っ子だよ

第46号

— 亀崎小学校 校長通信 —

2021年10月13日

運動会を終えて

10月9日（土）運動会を行いました。新型コロナウイルス対策のためお家の方の参観を2名に絞らせていただき、会食を避けるため午前日程で行いました。また、昨年度はリズム・表現運動は行いませんでしたが、今年度は取り入れました。最近、リズム・表現運動を運動会で行わない学校もあります。それに加え、新型コロナウイルス対策として、密を避ける、大声を出さないことも注意しなくてはならず、私の発想の中にリズム・表現運動はありませんでした。しかし、体育主任を中心とした運動会部会での話し合いを経て出てきた職員会議での案は、リズム・表現運動（応援合戦を含む）がプログラムに入っていました。初めてその案を見たときはびっくりしましたが、先生たちの話し合いの結果、出てきたものならと思い、実施に踏み切りました。毎朝、テレビに映る練習動画に合わせて何度も踊る子どもたちの姿や、大放課・昼放課の度に体育館前に自主的に集まり、動きをどうするか話し合ったり、練習したりする応援団の姿を見ていて、先生たちの案のとおりに行ってよかったとつくづく思いました。当日は、楽しそうに踊る1・2年生、真剣にソーラン節を演舞する3・4年生、身体いっぱいの声を出し、練習の成果を存分に出した5・6年生の応援合戦を見ていて涙する先生の姿をたくさん見かけました。その姿から、子どもたちと教師とが力を合わせて一つのものを作り上げることの尊さを感じました。子どもたちの姿とそれを支えきった先生たちの姿に感動しました。



運動会後の教室の黒板を見ると…

運動会が終わった後、戸締まりを見て回りました。すると黒板に運動会に向けた子どもたちへのメッセージや子どもたちの運動会への意気込みが書かれている教室がありました。その中のいくつかを紹介します。

子ども編「運動会するとき、徒競走や玉入れも頑張りたい」「白組みんなで協力して勝つぞ」「300%で頑張る」「全力投球」「限界を超える」「委員会の仕事と自分の仕事を頑張る」「全力で取り組んで最高の運動会にする」「信じる心！やりきる気持ち！やればできる！！」

先生編「…運動会を成功させるためには、みんなの力が必要です。競技や委員会の仕事で一人一人の輝く姿を期待しています」「…ここまでの道のりの中、悩んだり、泣いたり、自分の苦手なチャレンジしたり、いろんなことがあったと思います。それを一つ一つ乗り越えることができたのは、家族や友だちなどの周りの人たちの支えがあったからだと思います。その人たちへの感謝の気持ちを胸に、一人一人が全力で運動会にのぞむ姿を心から楽しみにしています。…」「…一生懸命ってカッコいい。一生懸命走る、跳ぶ、応援する。自分が持っている力で一生懸命やっている姿は見ている人の心を動かします。一生懸命やろう。…」

この他にも直接子どもと先生との間で交わされた言葉もあるでしょう。これらの言葉は、きっと今までクラスの中で大切にされてきたものだと思います。その言葉を胸に行った運動会が、クラスの仲間と担任とのよき思い出になったものと思います。担任はいいなーと思いました。

保護者の方から

11日(月)朝、交通立哨のお母さんから次のようなお話を伺いました。「亀崎小の保護者の皆さんは、とてもマナーが良いですね。保護者席で見ていると、『子どもの種目が終わったのでどうぞ』と言って、場所を譲ってくださる人がたくさんいました。私は亀崎出身ではありませんが、亀崎小のことを保護者の皆さんが大切に思っていることを感じました」と。運動会の最中、参観している保護者の方にお願いの放送を入れることは一度もありませんでした。運動会後に校庭を回りましたが、ごみは一つも落ちていませんでした。運動会の最中に地域の方からの苦情電話は一本もありませんでした。亀崎小の保護者の皆さんのマナーのよさを、私も強く感じました。ご参観くださった皆さん、本当にありがとうございました。

♣ 子育てアラカルト ♣

【夢と目標】

目標は具体的でなければならない。手の届くところにあり、やれば、それが目に見える変化となって現れてきたほうがいい。やってもやっても効果が現れなければ、やる気など起きないのが人間の性だ。だからこそ「スモールステップ」が必要なのだ。夢や目標に向かって努力を続けさせようと思ったら、たとえ無理にでも「成果」を見つけ、やっていることを認めることが必要となる。

小説「モモ」(ミヒヤエル＝エンデ作 岩波書店)で、道路掃除のベッポが小さなモモに語りかける場面がある。私の大好きな部分だ。できれば、ご自分が舞台上で演技していると思って、声を出して、感情豊かに語ってほしい。

「なあモモ、とっても長い道路の掃除を受け持つことがよくあるんだ。おっそろしく長くて、これじゃとてもやりきれない、こう思ってしまう。」

彼はしばらく口をつぐんで、じっと前のほうを見ていますが、やがてまた続けます。

「そこでせかせかと働き出す。どんどんスピードを上げていく。ときどき目を開けて見るんだが、いつ見ても残りの道路はちっとも減っていない。だからもっとすごい勢いで働きまくる。心配でたまらないんだ。そしてしまいには息が切れて、動けなくなってしまう。こういうやり方はいかんのだ。」

ここで彼はまたしばらく考え込みます。それからやおら先を続けます。

「一度に道路全部のことを考えてはいかん。わかるかな？ 次の一歩のことだけ、次の一息のことだけ、次の一拭きのことだけ考えるんだ。いつも、ただ次のことだけをな。」

また一休みして、考え込み、それから、

「すると楽しくなってくる。これが大事なんだ。楽しければ仕事はうまくいく。はかどる。こういうふうにやらにゃあ、だめなんだ。」

そしてまた長い休みをとってから、

「ひょっと気がついたときには、一步一步進んできた道路がぜんぶ終わっとる。どうやってやり遂げたかは、自分でもわからん。」

彼は一人うなずいて、こう結びます。

「これが大事なんだ。」

【心に刻む言葉】

人生における悲劇は、目標を達成しなかったことにあるのではない。

人生に目標をもたなかったことにある。

【心に刻む言葉】

相手が言葉を探しているあいだは、じっと待っていないと いい言葉は聞けない。

【心に刻む言葉】

一人で見る夢は、夢でしかない。

しかし、誰かと見る夢は現実だ。 ーオノ ヨーコー

(ある教育者のひとり言 より)